

まんだら通信

第255号(通巻192号)

平成29年(2017)10月 佛誕2575年

295-0103 千葉県南房総市白浜町滝口1084
真言宗智山派 天神山 紫雲寺 高橋 龍渉
郵便振替 00120-2-43163 紫雲寺
TEL0470-38-4740/FAX 0470-30-5040
<http://www.shiunji.org/>
Mail post@shiunji.org



たまたま何かの巡り合わせで

私のもとに、毎月、「まんだら通信」というB4サイズのミニコミの通信が送られてくる。折々のできごとが仏教の法話にからめて語られ、フームと反省させられたり、ホッと温かい気持ちになったり。カラープリントされた写真も美しい。

この通信、きれいな海で名高い千葉県白浜町にある紫雲寺の住職、高橋龍渉さんが愛用のマックで手作りしている。発行部数は5、600部もあり、読者は地域の人や檀家などだそう。初めてお目にかかってから、もう7年以上になるのに、きちんと届けてくださる。

ほんとうをいうと、町の行事を取材に行ったとき、一眼レフでカメラマンベスト

を着て熱心に撮影している男性がいて、つぎ同業者者だと思ひ込んで挨拶したのが出会いだった。

高橋さんにとってお寺は、「規制の緩やかな公民館」であり、「町の歴史を保存しておく図書館」。お堂で地元の音楽サークルがコンサートをしたり、境内が子供たちのバーベキューの会場になったり。また、自らカメラを下げ、地域のさまざまな行事やイベントに精力的に顔を出し、町の歴史を記録している。

高橋さんの父親は満州の開拓団付きの医師だったが、引き揚げの途中、母親と妹とともに亡くなった。たまたま日本の親類の元にいた高橋さんだけが生き残った。あるとき、寺の世話人から、住職の弟子が戦死して跡継ぎがないから、住職にならないかと持ちかけられる。そうして、中学を卒業すると京都の本山で修行。修行中に先代が亡くなり、20歳で寺を継いだ。住職としての生活も、まもなく半世紀になる。

「自分は寺に生まれたわけでもなく、何かの力に導かれ、たまたまなったのですよ。だから、寺はみんなのものだと思っているんです」 たんたんと言っていた高橋さんのことを、このごろよく思ひ出す。「ふと気づくと、こうしていた。」「たまたま、こうなった。」「なにかの巡り合わせで、自分のところに機会が巡ってきた。」「仕事」というのは、そんなものかもしれない。

仕える事、と書くもの。自分のところに巡ってきた縁を、「有り難いこっちゃ 結構なこっちゃ」(まんだら通信、2002年10月号)と受け、精いっぱい使命

感、真摯な義務感、謙虚な責任感でもって成していく。ひたむきに打ち込んで、死ぬ時に、ああ天職だったのかなあ、と振り返ることができたら、それが幸せなのかもしれない。

自信と信念をもって、いつも自分の真ん中にたつぷりと愛をたえていたい。こうだと思ふことを、コツコツと続けたい。いっただってどれだけの人を幸せにすることができるか考えていたい。

「まんだら通信」が届くと、そういう誠実な気持ちになる。

(桑太)ブログ 沢木遙の『辛せ力をつける練習日記』

2003年8月30日

たった一度お会いしたけななのに、ずっとおつきあいが続くという、そんな間柄があります。

千葉県四街道市に県立盲学校があります。

20年前、修学旅行で生徒さんが県内一周したとき「フローラルホール」でコンサートをしました。

同行取材をしていたのが、上の文章をお書きになった、当時朝日新聞相支局の、ペンネーム沢木遙さんです。町のコーラスグループ「マリリン・ブルー」も賛助出演するというので写真を撮りに行き、沢木さんにお会いしました。立ち話でしたが、後でゆつくり話を聞きたいということだったように憶えています。翌朝おいでになり、銀杏の樹の下でプレハブで半日四方山話をし、一緒に冷や麦の簡単なお昼を済ませ、館山駅までお送りしました。その記事が沢木さん連載の『街模様』の、『寺は地域の公民館』でした。

早いものであれから何十年、お会いしたのはその時だけです。年賀状には余白にびっしりと「商売がたきの読売の記者と結婚しました」、「子供が生まれました」、「二児の親になりました」などと一年の出来事が綴られています。

数年前「何かの巡り合わせで、インターネットで上の文章を見つけた。おそろく百万以上はあるだろうブログという日記風の書き物の中から見つかるなど、まったく不思議な縁という他ありません。あの日、雨上がりの館山駅前で写した、娘さん時代の写真は今も

パソコンの上で微笑んでいます。



ノキリンソウ属】です。北アメリカ原産で、明治時代に切り花用として輸入された帰化植物だそうですから、それほど新しい植物ではないのです。戦後、米軍の輸入物資に混じっていた種子などによって、急に広まったというのが定説のようです。ひと頃、花粉症の原因ではと騒がれましたが、関係ないのだそうですね。やたらにはびこって困り者ですが、アラバマ州の花になっているなどというように、よく見るとなかなかきれいな花です。写真のミツバチはわが家の住人で、おなかがいっぱいに膨れています。29.10.10 龍渉

◆この『まんだら通信』は、「(何かの巡り合わせを)有り難いこっちゃ 結構なこっちゃ」と受け、精いっぱいの使命感、真摯な義務感、謙虚な責任感でもって成していく。と、いうほどのものでは勿論なくて「みなさん、この1ヶ月もお元気でしたか。私もご覧の通り何とかやっています。」という程度の気持ちで続けています。83歳という年齢ですから、いつまで続くのか分かりませんし、力仕事ではないので寝たきりになっても、その点は大丈夫でしょうが、自分は大丈夫と思って「頭の配線」がおかしくなれば、これはもう仕方ありませんね。

◆今月の野草は、ご存知セイトカアワダチソウ【きく科アキ

余滴

きずな
絆

殊の外、今年の夏は暑いようです。
お元氣にお過ごしですか。

先日お参りにいらした方と、「今年の夏は特別暑いようですね。年のせいだろうか」「いやいや、決して年ではなく本当に暑いんですよ」という話ができました。まったく暑いですね。

このところ、新聞、テレビのニュースで流れるのは悲しくやり切れないことが多いですね。

大阪で亡くなつてた幼な子二人、そして百歳のお年寄りの行方不明。長寿でおめだたい筈が、どこにいるのか解らない、もう何十年もどこにいるのか解らない、そんな親子の關係つて、私には考えられません。

どうしてこんな殺伐としたニュースが毎日流れるようになってしまったのでしょうか。

私たちの両親たちは、戦争と戦後の復興に一生懸命で働きました。

氣がついてみたら、戦争に負けて工場も道路も鉄道も、何から何までなくした日本が、GDP(国内で生産したものの総額)で世界第二位という、誰もがビックリするほど、欲しいものは何でもあるという豊かな国になりました。

お陰さまで、きれいなお家、自家用車、海外旅行、豊かな食事などなど、物質的には本当に恵まれて来たものだと思います。

でも、私たちの気持ちは豊かになってきているのでしょうか。何か大切なものが抜け落ちているような氣がしてなりません。

周囲との關係、親子兄弟の關係、考えてみたら、風習とか習慣とかも含めて煩

わしいことなど、無いに越したことはないようにも思えます。

お隣で人さまが亡くなつていても、幼な子が空腹と恐怖で泣き叫んでも、助けることができない無力さに、いたたまれない氣持ちになります。

私つてなんて情けないんだろうと思いました。

大阪の事件を考えると、二十三歳のお母さんは、多分、本音の話を聞いてくれる人もなく、幼な子二人を抱えての生活はそれはそれは大変な苦勞があつたと思います。

二十三歳といえば、おしゃれもしたい、たまにはお友達と遊びたい。周りはみんな楽しそうに思える。

二十二歳で母親になつた私には、このお母さんの氣持ちが痛いほど分かります。でもそうではあつても、幼な子を見殺しにしたことは、許されることではありません。

私にも娘がおります。彼女は幼い子供三人を抱え、嫁ぎ先のご両親や、ご近所さんにお世話になりながら、それなりに一生懸命子育てをしています。

大阪の彼女にもご両親、ご兄弟、友人など、だれか身近に助けを求める人がいなかったのでしょうか。

人間關係の希薄さを痛感した事件でした。よく友人と話すことですが「殺すなら捨ててよ、拾つて育てるわよ」と。

私も全く同じ思いです。

住職の自分のブログ『さざえのつぶやき』に「仏様に預かつた大事な生命。

親御さんの氣が変わるまで、肩代わりすることに、ためらいはありません。そのような時にはぜひ連絡してください。」と書いてありました。

虐待や、幼い命をないがしろにしてしまふこのようなことは、若い人たちは

きつと自分自身を見失つてしまつているから、ではないでしょうか。

都会では「隣は何をする人ぞ」ということが、如何にも良いことのように言われた時期がありました。それつて本当に良いことなのでしょう。お隣で人が亡くなつていても、幾日も氣が付かないような、そんな世の中で良い筈がないのではと思います。

時代だから仕方がないと、物分かりが良くなつてしまつて、何か大切なものを忘れてきたような氣がします。

時の流れに身を任せることも、時には必要なことでしょう。けれども、敢えて流れに逆らうことも大事なことでないでしょうか。

この辺で立ち止まり、本当の豊かさとは心が満足することではないのか、一度ゆつくり考えてみたいと思います。

私たちが忘れてきたもの、置き去りにしてきたものは、自分ではなく相手に寄り添う、温かい心だつたのではないのでしょうか。今ならまだ、間に合うような氣がしています。あらためて子供たち、孫たちに『日本人の心』を伝えて行きたいと思つています。

高橋 宏子

マスコミは社会の木鐸とか社会の公器といわれます。学者や政治家や企業のしていること、言っていることが本当かどうか調べて、「これは間違いではないのですか」などと言わなければなりません。読者・視聴者は、それを期待してお金を払っているのですから。「地球温暖化は二酸化炭素が原因」という話があつたら、本当にその通りなのか調べてくれないと役目を果たしたことになります。地球が暖かくなっているのか、それとも寒くなっているのか、

学者の意見は寒冷化と温暖化は半々だそうですね。今、「地球は温暖化しているから、今のうちに対策が必要」といっている学者の大部分が、20年前には地球は寒くなっていると言っていた人だそうですね。二酸化炭素が増えると地球が温暖化するから、それを減らさなければいけないと、皆が言っていますが嘘っぱちだと言っている学者は9割だそうです。経済成長一点張りの政治家が、金もうけの手伝いでそんな根も葉もないことを言つたら、未来の子孫のために、無駄なことはやめなさいというのがマスコミの役目と違いますが。